

うとない

Vol.449 2025.10

6年ぶり

こぶし「病院祭り」

秋風に誘われて、ウトナイ病院に笑顔が咲いた一日—6年ぶりの「病院祭り」が開催されました。移転後初の開催となった今回は、通院・入院中の皆さまに向けて、屋台やゲーム、抽選会などを通じて交流の輪が広がりました。

9月12日、ウトナイ病院にて6年ぶりとなる「病院祭り」が開催されました。移転後初の開催となった今回は、通院・入院中の皆さまを対象に、屋台や抽選会を通じて交流と気分転換の機会を提供。秋晴れの空の下、笑顔と笑い声があふれる一日となりました。

当日はやや風が強かったものの、過ごしやすい気温で、職員駐車場を会場に予定通り開催。午前9時からスタッフが集まり、会場設営と屋台準備に取り掛かりました。各部署が協力し合い、13時半には販売がスタート。院内放送の合図とともに、皆さまが続々と会場へ足を運び、賑やかなひとときが始まりました。

各病棟とリハビリテーション部は、焼きそば、唐揚げセット、綿あめ、かき氷、ラムネなどの飲食を担当。植苗病院時代から使っていた懐かしいのれんに加え、気合の入った装飾が施された屋台も並びました。デイケアでは、メンバーが手作りしたキーホルダーやたわしなどを販売するフリーマーケットを展開。リワークデイケアが担当したゲームコーナーは、今回唯一の無料参加企画とあって大盛況でした。会場まで来られない方のために、急遽デリバリーサービスも登場。メモを片手に各屋台で希望の品を調達するスタッフの姿も見られました。

15時から抽選会。院内放送の呼びかけに応じて再び会場に人が集まり、自分の番号が呼ばれるかどうか、皆が高木蒼太郎医師に注目。なぜか40番台ばかりを引いてしまう高木医師に笑いが起こり、終始和やかな雰囲気の中で進行されました。職員から提供された景品は35点にのぼり、心のこもった贈り物となりました。



上：凝った装飾の屋台

下：「管理栄養士黙認」ジャンキーセット

今回のお祭りには、入院・通院中の方だけでも110名以上が参加。普段は階が異なり顔を合わせる機会の少ない方々の再会や、通院のタイミングで久しぶりに言葉を交わす場面も多く見られ、交流の場としての目的を十分に果たすことができました。スタッフも屋台運営や誘導を通じて利用者や職員同士の関わりを深め、病院全体が一体となる時間となりました。

音響設備や電源の工夫、会場レイアウトの調整など、準備段階では課題もありましたが、職員の連携と柔軟な対応により、大きなトラブルもなく無事終了。安心して楽しめる祭りとなりました。

ウトナイ病院が地域に根づき、皆さまにとって「また来たい」と思える場所となるよう、今後もこうした取り組みを大切にしていきます。



抽選会



精神科医の 育休日記

精神科医 川並 剛

第7回 「顔の向き」

子育て6年目でようやく気づいたこと、驚いたことがあったのでそれを書いてみます。ところでみなさん、矢印が上下左右どちらに向いているか直感的にわかりますよね？誰かが逆立ちしているのを見たときも上下逆様になっていると直感的にわかりますよね？自分もそれらはわかるんですが、不思議と直感的に変な感覚になったことがあります。それは、歯磨きの仕上げ磨きの時です。子どもと向かい合って仕上げをする時はまっすぐ顔を見るので、目鼻口の位置関係はいつものように見えます。膝枕をして仕上げ磨きをする時も頭のとっぺんが私のおなかに来るので、顔の部位は逆様だなと直感できます。ところがですね、その時に目や鼻を隠して口だけを見ると、なぜか口だけは目や鼻とおなじ上下反対には見えず、普段の口（逆立ちの逆立ち？）のように見えてとても奇妙に感じるのです。しかも、食べられそうな恐怖心、それは子ども番組「いないいないばあ」のぽうぽ（いつもは歯が見えない可愛いキャラなのです）が歯磨きの時間の歌になるととたんに歯が剥き出しになって「捕食者の邪悪さ」を感じるのと似ているのです…これって自分だけでしょうか？

Dr. 望月の日々雑感

サントリーは、さまざまな清涼飲料で割って楽しむノンアルコール飲料「ZEROPPA（ゼロッパ）」を、9月16日から飲食店向けに発売する。将来的には「ベースのノンアル」として、全国5,000店舗での取り扱いを目指す。飲食店でノンアルメニューを充実させることで、販路の拡大を図る方針だ。

ゼロッパには、蒸留酒からアルコール成分を除去し、香りや風味のみを抽出・再現した脱アル香味エキスが使用されており、口に含むと本物のお酒のような香りが広がり、余韻も長く続くという。飲み方としては、ゼロッパ1に対してコーラやジュース、炭酸水などを4の割合で割ることが推奨されている。

この取り組みは、ノンアルコール事業に年間50億円を投資する施策の一環である。担当者は「蒸留酒を脱アルし、ブレンドすることで“得も言われぬ酒感”を再現したかった。ノンアルの選択肢を広げたい」と語っている。



精神科医 田中 尚朗

第30回 駅探訪 セイラム駅

みなさんこんにちは。暦は10月となりハロウィンの季節になりました。この時期にボストン郊外の町に行くと、広い庭に巨大な骸骨やお化けが立っていたりして、感心させられるものです。

今回は前回紹介したニューバリー・ロックポート線のビバリー駅から一駅ボストンに寄ったセイラム駅を取り上げたいと思います。セイラムと言えば、17世紀末の魔女裁判で有名な街で、200名近い人々が魔女として告発され、20名以上の犠牲者を出すという悲惨な事件が起きました。現在のセイラムはそれを観光資源として大いに活用しており、中心街には博物館のほか、お化け屋敷などのアミューズメント施設がたくさんあります。

肝心の駅ですが、ボストンからメイン州へ北上するイースタン鉄道の駅として1838年に開業、1847年にはセイラムから東に向かうエセックス鉄道が開通し、ターミナル駅としての機能を果たすようになります。なお、これらの鉄道は1887年までには「巨人」ボストン・アンド・メイン鉄道の支配下に入っています。その後は鉄道の斜陽化に伴い路線網は縮小、1960-70年代にかけてMBTAがニューバリー・ロックポート線のみを引き継いで運行するようになりました。駅は1面1線、中心街に近い場所にあるためか、構内のスペースは限られています。1847年に立派な駅舎が建てられましたが、1940-50年代に市街地の交通を円滑にするためにトンネルが建設されることになり、邪魔になった駅舎は1959年に壊されてしまいました。現在の駅は1987年にMBTAが旧駅の北側に建設したもので、2015年には700台収容の駐車場が完成しています。

セイラムは1626年に移民が始まった歴史の古い街であり、18世紀以降には東インド諸島や中国に貿易船が送られていました。旧税関の建物や西インド物産店、東インド海事博物館など、貿易で栄えた時代の名所が多く残ります。



今年の夏、業務の合間に少しずつ病院の敷地の一角を耕し、小さな畑をつくりました。最初はスコップ片手に穴を掘るところからのスタート。治療の一環の活動として、畑を活用できないかとの思いで始めましたが、気がつけば汗だくになりながら夢中になっていました。

職員の皆様にも協力していただき、夏にはトマトが少し実りました。水やりや草取りの時間は、患者さんと過ごす穏やかなひとときでもあります。

土の感触や芽の成長に笑顔を見せる姿に、こちらの心までやわらぎます。病棟での会話とはまた違う自然な表情が見られるのも、この活動の魅力かもしれません。

今は秋の終わり。畑の土もそろそろ冬支度です。今年はこれで一区切りですが、来年度はジャガイモを植えたいと考えています。種まきから収穫まで、季節の移ろいを患者さんと一緒に感じられるような時間を、これから大切にしていきたいと思います。

(T.S)

お知らせ

◆ 外来休診のお知らせ ◆

なります。ご利用されています皆様にはご不便をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

	12/27 金曜日	12/28 土曜日	12/29 日曜日	12/30 月曜日	12/31 火曜日	1/1 水曜日	1/2 木曜日	1/3 金曜日	1/4 土曜日	1/5 日曜日	1/6 月曜日
外 来	通常 診療	休 診									通常 診療

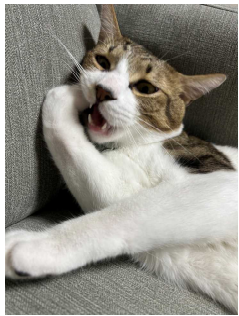
◆ 開院記念日に伴う休診のお知らせ ◆

2025年12月1日(月)は開院記念日より、外来診療が休診となります。皆様にはご不便をお掛けしますが、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。



病む人と出会い
病む人を支え
病む人に学ぶ

発行
社会医療法人こぶし広報委員会
苫小牧市字植苗52-2
TEL:0144-58-2314
<http://www.uenae-hp.or.jp/>



前足をかじる猫ちゃん

〈後記〉
猫ちゃんを飼い始めて約2年が経ちますが、猫ちゃんの効果はすごいもので少し辛いことがあっても猫ちゃんを見ると幸せな気持ちになります。好きすぎて猫ちゃんのTシャツを作ろうかと思う今日この頃です…。

(T)